

日本教育大学協会 全国美術部門 会報 No.55

令和3年度(2021)年6月30日発行

編集・発行 全国美術部門広報室
代 表 八重樫良二(北海道教育大学)
総務局長 芳賀正之(静岡大学)
広報室 E-mail: daibibumon@uaesj.com(総務局専用)
事務支局 〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入る西大路町
146番地 中西印刷株式会社 学会部内
TEL: 075-415-3661/FAX: 075-415-3662
E-mail: uaesj@nacoss.com

大学間共同教職課程と美術科免許

全国美術部門副代表 新関 伸也 (滋賀大学)



中央教育審議会から、令和3年1月に答申された『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～では、「Society5.0時代」、「予測困難な時代」が到来する中で、2020年代を通じて実現を目指す「令和の日本型学校教育」の在り方を「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」としている。これを受け中央教育審議会に文部科学大臣は『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について(令和3年3月12日)を「①教師に求められる資質能力の再定義、②多様な専門性を有する質の高い教職員集団の在り方、③教員免許の在り方・教員免許更新制の抜本的な見直し、④教員養成大学・学部、教職大学院の機能強化・高度化、⑤教師を支える環境整備」の5点から諮問している。特に、我々が注視すべき点は、前記の③と④であろう。従来の制度では各教員養成大学・学部単位で中・高美術免許に必要な単位を出すことを前提に、また大学院設置による「絵画、彫刻、デザイン、工芸、美術理論・美術史」の5名の専門と教科教育の計7名が保証されていたが、もはや教職大学院1本化となり、この定員は崩壊した。特に地方の大学の教員採用の少ない音楽、美術、保健体育、技術、家庭などの実技教科では、退職教員の不補充が重なり、定員激減は甚だしい。課程認定下限3名の教科専門教員で、中高免許を非常勤講師に依存しながら何とか単位認定をしている大学も出ている現状である。

このことは法人化以降の〈選択と集中〉の文部行政により予測はできたのだが、いよいよ複数の大学が教職課程を

構築できる仕組みが創設(令和2年度に制度改正、令和3年度以降に制度を活用した課程の開始)された。いわゆる「大学等連携推進法人(仮称)」に参画する大学が、課程の科目や専任教員を共通化し、教職課程を構築することが可能となったのである。

この制度を先取るかたちで、四国の徳島、鳴門教育、香川、愛媛、高知の5国立大学が「一般社団法人四国地域大学ネットワーク機構」を立ち上げて、人口減少期の教員養成モデルを目指す「連携教職課程」を令和5年度に開設する予定である。この法人認定により、授業科目を共同開設し、5大学で1つの教職課程を備えることを目的としている。この機構設立の背景には、少子高齢化が進み、四国各県で、特に教員採用数が少ない音楽、美術、保健体育、技術、家庭の実技系5教科の教員免許を取得できない状況を避けるねらいがある。学生がオンラインを活用し、四国の他大学の多様な専門性のある教員に学びつつ、単独の大学では難しい集団実技も検討しているという。

この四国の大学ネットワーク機構による中学校美術科等の免許取得の仕組みは、やがて四国だけでなく全国に拡大するに違いない。一方でこの共同教職課程による免許取得の仕組みは大学ごとの中学校免許全教科維持の原則が崩れたことも意味している。

美術部門でも先行の四国地区会と連携しつつ、近々に授業開設を巡る具体的な方法などの情報を共有する必要があるだろう。昨今コロナ禍の中で、オンライン授業が定着し、ICTによるネットワークを活用した大学間共同教育が、さらに加速されるであろう。

令和2(2020)年度 部門 役員・各種委員会委員一覧

■代表 八重樫良二* (北海道教育大学)

■副代表 新関伸也* (滋賀大学)
佐藤賢司* (大阪教育大学)

■顧問 佐藤哲夫* (新潟大学)

■総務局委員

総務局長 芳賀正之* (静岡大学)
副総務局長 村田 透* (滋賀大学)
松尾大介* (上越教育大学)
総務局員 笠原広一 (東京学芸大学)
河西栄二 (岐阜大学)
前芝武史 (兵庫教育大学)
秋山敏行 (愛媛大学)
大貫真寿美 (帝京大学)

■大会運営委員

株田昌彦 (宇都宮大学)
小林俊介 (山形大学)

■監事

新野貴則* (山梨大学)
原口健一 (横浜国立大学)

■地区全国委員

I〔北海道〕

竹田園子 (北海道教育大学岩見沢校)
福江良純 (北海道教育大学釧路校)

〔東北〕

蝦名敦子 (弘前大学)
平野英史 (岩手大学)

II〔関東〕

渡辺邦夫 (横浜国立大学)
神野真吾 (千葉大学)

III〔北陸〕

隅 敦 (富山大学)
松尾大介 (上越教育大学)

〔東海〕

安田篤生 (愛知教育大学)
関 俊一 (三重大学)

IV〔近畿〕

日野陽子 (京都教育大学)
藤田昌宏 (滋賀大学)

〔四国〕

山田芳明 (鳴門教育大学)
吉川暢子 (香川大学)

V〔中国〕

井戸川豊 (広島大学)
山本和史 (岡山大学)

〔九州〕

廣瀬 剛 (大分大学)
宮田洋平 (福岡教育大学)

■学校美術教育支援委員会

(兼 大学造形教育連絡協議会)

(兼 全国造形教育連盟大学部会)

委員長 西村德行 (東京学芸大学)

副委員長 笠原広一 (東京学芸大学)

委員 後藤雅宣 (千葉大学)

神野真吾 (千葉大学)

花輪大輔 (北海道教育大学)

*印：運営委員

令和2年度 地区会報告

【 北海道地区会 】

第1回 日本教育大学全国美術部門 北海道地区
総会 議事録

今年度の地区総会は、コロナ禍の影響を考慮して
書面会議として開催した。

日時：令和2年9月12日～9月16日

参加者

札幌校：花輪、牧野、李

旭川校：岩永、大石、南部、八重樫

釧路校：佐々木、富田、福江

函館校：橋本

岩見沢：阿部、伊藤、大西、倉重、坂巻、佐々
木、末次、羽子田、舩岳、前田、三浦、
三橋、山内、竹田（敬称略）

協議事項

1、令和4年度以降の地区全国委員・地区全国理
事について

下の表の通り、令和4～5年度の地区全国
委員・地区全国理事は、李先生（札幌校）が
担当されることが提案され、承認された。

年度	地区全国委員・地区全国理事	
R元	竹田（岩見沢）	橋本（函館）
R2	竹田（岩見沢）	福江（釧路）
R3	佐々木（岩見沢）	福江（釧路）
R4	佐々木（岩見沢）	李（札幌）
R5		李（札幌）

報告

理事会から以下の連絡があった

・登録メールアドレス確認のお願い

諸案内をメールにて送っているが、届かない
ケースがあるため、会員情報のメールアドレス
を確認いただき、変更がある場合にはメー
ルアドレスの更新をお願いしたい。

変更は、それぞれのホームページから行うこ
とができる。

・令和3年度の学会開催予定について

来年度開催予定大学である山形大学は、例年恒

例となっている9月の連休に当たる開催日程に
ついて、全学電気工事のために開催日を1週間
遅らせることで対応を進めており、詳細につい
ては今年度の総会にて改めて報告する。

その他

・新会員として2名の先生の入会が報告され、ご
挨拶をいただいた。

牧野 香里 先生（札幌校） 絵画研究室

山内 祈信 先生（岩見沢校） 彫塑研究室

以上

【 東北地区会 】

2020年6月初旬にメールで、東北地区会が予
定されていた秋田大学から、例年6月に開催して
いた二部会を今年は新型コロナの影響で中止し、
当番は来年度に先送りをするという提案がなされ
ました。他の各大学（岩手大学、宮城教育大学、
山形大学、福島大学、弘前大学）も同意されたこ
とから、本年度の東北地区会は開催されておま
せん。来年度引き続き、秋田大学が担当するこ
とになっています。

尚、来年度は山形大学で大会が予定されていま
すが、分科会の司会や大会テーマ等についての連
絡がメールで行われており、各大学の協力が確認
されている状況です。（弘前大学 蝦名敦子）

【 関東地区会 】

日時：令和2年7月4日（土）

時間：代議員会・地区総会・協議会 13:00～14:40

*効率化情報開示の観点から代議員会から公開
進行した。

場所：横浜国立大学・Zoom 会議（オンライン）

出席者：全30名

■地区総会

・地区長挨拶（渡辺）

1.前年度議事録の確認

地区代表より確認依頼（渡辺）一部修正の上、確認された。

2.令和元年度関東地区会収支決算報告（学芸大学）

会計担当の学芸大学（西村）から報告された。

3.令和元年度関東地区会会計監査報告（埼玉大学）

監査担当 埼玉大学（高須賀）から報告・承認された。

4.令和2・3年度 全国美術部門地区全国委員選出

令和2・3年度 神野真吾（千葉大学）、渡辺邦夫（横浜国立大学）に決定。承認された。

5.令和2・3年度大学美術教育学会地区全国理事選出

令和2・3年度 神野真吾（千葉大学）、渡辺邦夫（横浜国立大学）に決定。承認された。

6.令和3年度 地区総会・協議会の開催について

当番大学（千葉大学）が確認された。

7.令和2年度会計大学、監査大学について

会計大学（横浜国立大学）監査大学（東京学芸大学）が確認された。

今年度は、オンラインでの会議であったため、集金方法について、各大学から教員数分を纏めて指定口座へ振込にて集金対応することに決定した。
(小池)

■協議会

1.承合事項 *各大学の回答を集計し纏めて、事前に情報共有し、時間を短縮する方法を採用した。

配布資料を基に各大学から説明があり、承合事項について、大学間で承合した。

2.協議事項 *オンライン会議で資料等は画面共有して説明があり、協議、進行した。

(1) 宇都宮大会について【宇都宮大学・株田】

コロナ感染が広がる中での大会開催について、開催方法と現状について投影資料を基に詳しい説明があった。今回、コロナ禍の影響により。大会の有料参加者の減少が予想され、大会運営上の赤字が予想される。また、マスク、アルコール消毒等の備品についても更なる出費が見込まれるため、関東地区会から100,000円の大会運営補助金の供出要請があり、承認された。

(2) 関東地区会の開催方法に関する提案【千葉大学・後藤】

今年度末までに各大学代議員を中心に地区会開催方法についての意見を纏め、次期開催大学の千葉大学まで回答をお願いすることの提案があり承認された。本件は継続メール稟議となった。各大学から意見を集約して web 開催も視野に入れつつ、当番校の判断に任せると決定した。（後藤）
→ 2021年度の関東地区会（千葉大会）開催方法について協議の結果、コロナ禍の千葉の状況が芳しくなく、この夏の状況も全く読み切れないことから、今年度同様、web 開催で行うと決定した。
(後藤)

■追記報告事項 *メール稟議により関東地区所属各大学より賛同了解を得た異例の判断。（小池）
コロナの影響で、出張費等、使途予定の無い「教科等別研究会補助金」85,000円の返金を地区で決定した。

【北陸地区会】

日時：令和2年7月1日（水）

13:00～15:00

場所：オンラインによる会議

出席者：全21名

1. 開会（挨拶：上越教育大学 五十嵐史帆）

2. 出席者の紹介

3. 議長選出（上越教育大学 松尾 大介）

4. 報告事項

① 日本教育大学協会美術部門委員会報告

② 大学美術教育学会理事会報告

③ 令和元年度 事業報告と会計報告

5. 協議事項

① 令和2年度 事業計画と会計予算

② 本年度の全国委員・全国理事の選出

③ 美術を中心に、教員養成における大学教員と附属学校教員の連携について

④（今年は異例対応だが）通常の場合、大学の教育実習の時期と期間、その長所短所はどのようなものか教えて頂きたい。

- ⑤ これからの美術科教員養成の可能性とその必要性について
- ⑥ 二部会の活動を有意義なものにするための方策
- ⑦ 北陸地区会の次年度の開催形態について(オンライン会議の導入など)
- ⑧ 令和3年度以降の協議会当番校
- ⑨ 役員担当手当について
- ⑩ その他

6. 承合事項 (各大学で確認)

- ① 新型コロナウイルス影響下での各大学の現況
- ② 附属学校との連携について(共同研究や教育実習の取り組みや成果)
- ③ 教員採用試験対策について(実施している取り組みの内容)
- ④ 学生の資質(実践的指導力)を身につけさせる取り組み
- ⑤ 卒業研究について(卒展や卒論の内容や発表形態)
- ⑥ オンライン授業で効果が見られた実践例
- ⑦ 小・中学校両方の免許取得が義務付けられている大学で、小中複数免許の必修化をした事での運用上の難しさや、美術科ならではの問題点について
- ⑧ 金沢大学は通常の新学期より約2週間遅れで授業が始まったが、現在、全授業が遠隔となっており、当美術教育専修では、講義はオンデマンドによるオンライン配信やテレビ会議システム、実技は一部オンライン授業または休講とし、対面授業が可能になった時から補講にて対処する方策をとっている。どこも同じような現状だとは思いますが、他大学において、特に実技の実施方法について、独自の方策を実施している大学があれば、参考程度に知りたいと考えている

継続審議

日時: 令和2年7月30日(火)～8月9日(日)

メール審議

出席者: 全6名

- ① 令和2年度地区全国理事の役員担当手当について

【東海地区会】

日時: 2020年9月6日(日) 10:00～11:25

会場: ZOOMによる遠隔会議

参加者: 19名(敬称略)

- ・静岡大学 7名
伊藤文彦 占部史人 大宮康男 川原崎知洋
高橋智子 名倉達了 芳賀正之
- ・三重大学 5名
上山浩 岡田博明 奥田真澄 山口泰弘 山田康彦
- ・愛知教育大学 3名
佐々木雅浩 杉林英彦 富山祥瑞
- ・岐阜大学(幹事校) 4名
河西栄二 野村幸弘 隼瀬大輔 山本政幸

1. 令和2年度部門・学会地区委員について

令和元・2年度担当委員の安田篤生氏(愛知教育大学)の継続、令和2・3年度担当委員として三重大学の関俊一氏(三重大学)の選出、および令和3・4年度担当委員の杉林英彦(愛知教育大学)の予定を確認した。令和2年度事務代表として幹事校の山本政幸(岐阜大学)が担当することとなった。

2. 次年度(令和3年度)開催地について

令和3年度東海地区会開催校は、地区内でのローテーション(三重大学→岐阜大学→静岡大学→愛知教育大学)にもとづき、静岡大学に決定した。

3. 各大学の新型コロナウイルス感染対策と講座における授業実施の状況について

新型コロナウイルス感染症拡大にともなう4月の「緊急事態宣言」以降の各大学での授業の実施状況が報告された。とくにZOOM等による遠隔授業や実技科目の取り組みについて、具体的な授業の事例をあげながら詳細な報告が行われた。また、後期に向けての授業方針が紹介され、教室の収容人数の調整や、資料掲載によ

るオンデマンド型、受講者を分けて対面授業と遠隔授業を交互に行うハイブリッド型等の授業方法について意見交換が行われた。また、各大学における教育実習の実施状況についても報告があった。

4. 志願者数の動向（入試情報）について

各大学の学部・大学院における入学志願者数の動向と入試の変更点等が報告された。とくに、組織改革・定員変更の影響や推薦入試の状況などについて意見交換が行われた。

5. 卒業生・修了生の動向（進路情報）について

各大学の令和元年度卒業・修了生の進路状況について報告された。

6. 各大学学部・大学院における改革・改組等の状況について

各大学における組織改革の状況が報告された。学部の教員養成課程の改組・再編にともなう定員減等、さらに本年度および来年度から始まる教職大学院の取り組み状況について報告と意見交換が行われた。

7. その他

とくになし。

【 近畿地区会 】

令和2年地区理事：京都教育大学・滋賀大学

日時：令和2年5月29日（金）10:30～13:15

場所：ZOOMによるリモート会議

出席者：大阪教育大学・谷村さくら、寺島みどり

奈良教育大学・狩野宏明

兵庫教育大学・前芝武史

和歌山大学・高木栄一、永沼理善

京都教育大学・丹下裕史、日野陽子

滋賀大学・新関伸也、藤田昌宏、村田透、

世ノ一善生

報告・協議事項

○会員数：大阪教育大学—10名

（教員養成課程7名、教養課程3名）

奈良教育大学—6名

兵庫教育大学—7名

（うち2名が教職大学院）

滋賀大学—4名

和歌山大学—2名（2名退職、1名転職）

京都教育大学—5名

○昨年度協議会および学会／岐阜大会の報告（本部役員 滋賀大学新関先生及び村田先生から）

○今年度宇都宮大会についてはコロナ対応で詳細未定

○令和2年度以降の地区理事の確認

兵庫 → 京都 → [滋賀 → 和歌山（・令和3年度）] → 大阪 → 奈良

○各大学からの状況報告（コロナ対応の経過、授業形態や工夫を中心に）

<大阪教育大学>

●コロナ対応 4月20日～オンライン授業開始 6月15日～実技実習系の授業及び卒業研究・修論指導に限り対面

●教員養成課程美術教育講座 学生の在籍状況
・学部—80名（定員小中11名・中7名 計18名）

・教育学研究科—M2・2名

・教職大学院—M2・1名、M1・3名

・教員就職—小学校5名、中学校3名、中学非常勤2名、高校常勤講師1名

・教育協働学科—学部定員 10名

・大学院芸術文化専攻—定員12名（内 造形表現2～3名）

・「教職大学院」とは別に「新しい形の大学院」を2021年度から開設予定

●就職の状況

・卒業生13名 教員：1/一般企業：7/その他進学等：5

・修了生3名 一般企業：3

<奈良教育大学>

●コロナ対応 5月7日～7月28日 原則として「非対面授業」 6月1日より、一部の授業で学長の許可を得たものに対面授業の実施。

●学生の在籍状況

・学部—美術教育専修 各学年11～12名

・文化遺産教育専修 各学年2～6名／大学院（美術、伝統文化）2人

- 教員就職率—7割程度
- 大学院—専門職学位課程（教職大学院）重点化を継続審議中。2022改組スタート予定。（奈良女子大学との統合を視野に特色ある改組を模索中）

<和歌山大学>

- コロナ対応 5月まで登校禁止。5月7日より遠隔授業開始。
- 学生の在籍状況
 - ・学部合計21名（各学年3～7名）
 - ・既存大学院—在籍者無し。R2年度募集停止
 - ・教職大学院一定員30名（21名在籍）
 - R2年度から一本化、4コース構成。教科領域を扱うコースに音・美・家で1つのユニットを設定
- 教員就職率 R1年度33%、30年度29%、29年度40%

<京都教育大学>

- コロナ対応 5月中旬より全学的に Google Classroom を導入。6月2日より基本的に対面の授業開始。
- 学生の在籍状況
 - ・大学院—M1・3名、M2・5名、
 - ・学部—各学年17～21名（書道含む）（定員—13名）
- 教員採用状況 小学校（講師）2名、中学校（専任）1名・（講師）1名、高校（専任）1名・（講師）1名
教育学研究科は今年度で募集停止。来年度より教職大学院へ一本化

<兵庫教育大学>

- コロナ対応 前期の授業はすべてオンライン。6月中旬から学生の入構禁止を解除。実技系は資材道具を学生に郵送。
- 学生の在籍状況
 - ・大学院—M1・5名、M2・6名※ 近年は留学生が増加傾向。
 - ・学部—各学年0～2名
 - ・教職大学院 美術分野はやがて専門職学位課程へ移行の見込み。

- ・連合大学院：兵庫教育、上越、鳴門、岡山大、+ 滋賀大、岐阜大

<滋賀大学>

- コロナ対応 4月20日からの全ての春学期授業をリモート講義で実施。大学のサポートとして、講習会の実施、器具の調達、教材の発送。
- 学生の在籍状況
 - ・学部—各学年7～9名
 - ・大学院—M1-3名（現職）M2-1名 連合大学院博士課程-2名、R3年より教職大学院へ一本化
- 教員就職率—R1年度-63%、H30年度-100%、29年度-50%

以上

【 四国地区会 】

日時：令和2年6月30日（火）13:00～14:30

場所：Microsoft Teams によるオンライン会議

出席者：古草敦史（香川大学）、

上原真依（愛媛大学）、

金子宜正（高知大学）、

山田芳明（鳴門教育大学）

議題：

1. 令和2年度四国地区全国理事について
令和2年度の四国地区全国理事として、鳴門教育大学：山田芳明（令和元年-2年）、香川大学：吉川暢子（令和2-3年）にお願いすることとなり、了承された。
2. 各大学の構成について
各大学の美術部門所属教員の構成について情報交換を行った。鳴門教育大学は教員の退職により1名減となったことが報告された。
3. 会計の引き継ぎ
 - ・令和元年度会計担当の金子（高知大学）から、令和2年度会計担当の山田（鳴門教育大学）への引き継ぎが確認された。
 - ・令和2年度支部会費納入について確認を行った。

なお、今回はオンラインにより会議を行った関係で、会計関係書類及び各大学の会費は、会議に先立って各大学、各担当より令和2年度会計担当者の山田（鳴門教育大学）宛に事前に現金書留等により送付された。

4. 情報交換

・新型コロナ禍による各大学の状況について

新型コロナウイルス感染拡大のなかでの各大学の授業の実施状況や、困窮学生への支援の状況、について情報交換を行った。また、今回、各大学がやむなくオンライン授業を行っているが、これがきっかけとなって、授業のオンライン化が加速することへの危惧等について共有された。

・全国理事会に上程する議題等について

新型コロナウイルス感染拡大を受けて見通しが立っていない中であるが、実技授業が行えない等の大学の状況、附属学校の状況、関連した実習受け入れの状況等について情報交換の必要性が確認された。

【中国地区会】

日時：2020年6月13日(土) 13:00～16:00

開催担当：広島大学

開催方法：Web会議システム「Zoom」

出席者：上原一明（山口大学）・中野良寿（山口大学）・平川和明（山口大学）・吉田貴富（山口大学）、有田洋子（島根大学）・藤田英樹（島根大学）、武田信吾（鳥取大学）、赤木里香子（岡山大学）・大橋功（岡山大学）・清田哲男（岡山大学）・山本和史（岡山大学）、池田吏志（広島大学）・井戸川豊（広島大学）・内田雅三（広島大学）・蜂谷昌之（広島大学）・三根和浪（広島大学）・八木健太郎（広島大学）

【1】研究発表会（13:05～14:45）

美術教育の実践、美術教育学の制度の成立、コロナ禍における遠隔授業について、3名の先生から発表及び話題提供があり、質疑応答とあわせ実りある会となった。

【2】定例総会（14:45～16:00）

1. 報告

(1) 全国委員会・理事会報告 吉田貴富(山口大学)

(2) 2019年度地区会会計報告 平川和明(山口大学)

(3) 2019年度会計監査報告（会員全員）

「報告(2)」について、会員全員で監査がなされ、承認された。

2. 協議：中国地区会の在り方について

(1) 地区会の規程改正原案について

昨年度（2019年度）の定例総会で協議された以下の①、②を規程に盛り込み、了承された。

① 2020年度以降は、会費を当面の間徴収しない。

② 定例総会は、メール審議または Web 会議システムによる遠隔開催も可能とする。

(2) 今年度（2020年度）の会計報告について

今年度（2020年度）は、事前に必要書類を山口大学から地区会員全員にメール配信し（各大学の代表経由）、地区会員の承認をもって監査とすることとした。

(3) 2020年度の会計担当について

今年度（2020年度）の会計については、労力、旅費および接触リスクの観点から、広島大学他に引き継がず、2019年度に引き続き、山口大学が担当することとした。

(4) 2021年度以降の会計のあり方について

事前に出された、会計業務を廃止する案、現状を維持する案について議論した。会計のあり方については、全国理事会への出張旅費の補助と密接に関係するため、継続して検討することとした。

3. 情報交換：教育実習における実技系教科の実施について

教育実習での実技系教科の実施について、各大学から情報収集をおこない、今後も情報を共有することとした。

4. 地区理事交代挨拶

前理事／吉田貴富（山口大学）

：2018～2019年度

継続理事／井戸川豊（広島大学）

：2019～2020 年度

新理事／山本和史（岡山大学）

：2020～2021 年度

5. 次期当番大学挨拶

山本和史（岡山大学）

作成・提出：井戸川 豊

○各大学の対応を資料に基づき確認した。

その他

令和 2 年度九州地区全国委員・全国理事として、
宮田 洋平（福岡教育大学）・廣瀬 剛（大分大学）
の就任をメールにて報告。

【九州地区会】

令和 2 年度は大分県での開催を予定していたが、
新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点
から、実施形態を書面での開催とし、承合事項の
み集約して回答を書面で配布することとした。

令和 2 年 7 月 20 日 研究協議会報告資料を各大学に配信

承合事項回答：

- ・福岡教育大学
- ・佐賀大学
- ・長崎大学
- ・熊本大学
- ・鹿児島大学
- ・琉球大学
- ・宮崎大学
- ・大分大学

承合事項（取りまとめ：大分大学）

1. 大学入学共通テスト導入後の美術科入試の方式について

○資料に基づき確認した。

2. 新型コロナウイルス感染対策に伴い遠隔授業が求められる中で、実技の授業はどのように対応されているか

○各大学の対応状況について資料に基づき確認した。

3. 小中高の図画工作・美術教員（非常勤・臨時採用）について、教育委員会等から人材の問い合わせがあった際の対応について

○各大学の対応を資料に基づき確認した。

4. 美術科と附属校園教員との連携等について

令和2年度 各種委員会活動報告

■学校美術教育支援委員会報告

全国造形教育研究大会千葉大会（令和2年11月20日、21日）の校種別会議・大学部会は、コロナ禍により大会が中止になったことから、実施には至らなかった。なお次年度以降も、以下4点の主たるテーマ（1.大学教員による美術教育研究への積極的な支援、2.教員養成系大学の課題についての現状報告と情報交換、3.美術教育関連8団体の継続と学会統合問題、4.美術館教育の現状）について、継続的に検討する予定である。

●中学校美術科教員実態調査結果について

平成26年3月に全国大学造形美術教育教員養成協議会と日本教育大学協会（以下、教大協）全国美術部門とで組織された大学造形教育連絡協議会の事業の一環として、全国造形教育連盟大学部会（学校美術教育支援委員会が兼務）において中学校の美術科の専任教諭や非常勤講師の中学校への配属状況等について把握するための「中学校美術科教員実態調査」を実施することを決定し、これ以降、継続的に調査をしている。

令和2年度においては、全国造形教育連盟に所属する各都道府県・政令指定都市の事務局を対象に質問紙調査（7月～11月）を行い、29の事務局から回答を得た（回収率 約41%）。

調査の結果、美術科の専任教諭を配置している学校は約53%、配置していない学校は47%あること、非常勤教員・講師で対応している学校や免許外教員で対応している学校の数は都道府県によって大きな差があることなどが明らかになった。

この結果は、令和2年度教大協全国研究部門代表者連絡協議会を通して、教大協会長へ「中学校美術科担当専任教諭の適正配置に関する要望書」として提出した。

本調査は、信頼性・有用性の向上を目指して調査方法や調査時期などを改善しながら、継続的に実施していく予定である。

令和2年度 役員会報告

令和2(2020)年度 第1回 日本教育大学協会全国美術部門役員会 議事録

日時：令和2年9月18日(金) 15:00~17:00
場所：宇都宮大学(共同教育学部ティーチングコモンズ)

出席者：八重樫代表・理事長、新関副代表、佐藤副代表、新井副理事長、山田副理事長、佐藤顧問、芳賀総務局長、村田副総務局長、松尾副総務局長、総務局員(前芝、秋山、大貫)、大会運営委員(株田、小林)、監事(新野、原口)、地区全国委員(竹田、蝦名、平野、渡辺、神野、隅、関、日野、吉川、井戸川、山本、広瀬、宮田)、西村学校美術教育支援委員会委員長、沖中私立大学全国理事、大会開催大学(宇都宮大学：本田、松島)

進行：芳賀正之(総務局長)

書記：村田透(副総務局長)

I あいさつ

- ・新関・副代表より開会の挨拶があった。
- ・八重樫・代表より代表挨拶があった。

II 報告事項

- 1 令和2年度 部門会員登録状況
 - ・芳賀・総務局長より、令和2年度の部門会員数(287名)の報告がなされた。
- 2 令和2年度 役員・各種委員会委員
 - ・芳賀・総務局長より、『宇都宮大会概要集』(以下、冊子)に基づき、役員・各種委員会委員の報告がなされた。
- 3 令和元年度 事業報告
 - ・芳賀・総務局長より、冊子に基づき、令和元年度 事業報告の報告がなされた。
- 4 令和元年度 部門会員名簿
 - ・村田・副総務局長より、令和元年度 部門会員名簿を発行・配布(令和2年1月)について報告がなされた。

5 部門各種委員会

- (1) 学校美術教育支援委員会(委員長：西村德行)
 - ・西村・委員長より、特に報告事項が無い旨、報告がなされた。
 - (2) 令和元年度 中学校美術科教員実態調査(笠原広一)
 - ・笠原・総務局員(代理：芳賀)より、令和2年度も実態調査を実施する報告がなされた。
- ### 6 令和2年度 部門協議会(副代表：新関伸也)
- ・新関副代表より、冊子に基づき、令和2年度 部門協議会の内容について報告がなされた。

III 協議事項

- 1 令和元年度決算、令和元年度 事業計画(案)・予算(案)
 - (1) 令和元年度 決算
 - ・芳賀・総務局長より、配布資料に基づき、令和元年度決算について説明がなされ、承認された。
 - (2) 令和元年度 監査
 - ・原口・監事より、配布資料に基づき、令和元年度 監査について説明がなされ、承認された。
 - (3) 令和2年度事業計画(案)
 - ・芳賀・総務局長より、宇都宮大会概要集に基づき、令和2年度事業計画(案)について説明がなされ、承認された。
 - (4) 令和2年度予算(案)
 - ・芳賀・総務局長より、配布資料に基づき、令和2年度予算(案)について説明がなされ、承認された。
- 2 次年度以降の地区会の委員選出について
 - ・芳賀・総務局長より、次の報告があった。今年度の各地区会がコロナ禍により開催が難航している地区があり、それに伴い新規委員の選出が難航する場合があった。また、かつて理事会を年三回(3, 6, 9月)実施していたが、現総務局体制では3月と6月の理事会・役員会を対面式で行っていない(3月：メール会議、6月：

会議無し)。そのことが地区委員の選出や役割の把握を困難としている要因となっている。オンラインで、3月と6月の理事会・役員会の実施を検討したい。9月の理事会・役員会に出席するための旅費支給についても検討したい。以上について、承認された。

- ・新関・副代表より、理事会・役員会などの機会を活用して、各地区の現状や問題を把握したり、意見を交換する場を設けていきたいと報告があり、承認された。

V あいさつ

- ・佐藤・副代表より閉会の挨拶があった。

令和2（2020）年度 第2回日本教育大学協会全国美術部門役員会・大学美術教育学会理事会 議事録（メール審議）

【報告事項】

1. 令和2（2020）年度 第3回総務局会 議事録

日時：令和3（2021）年3月18日（日）

13：30-16：00

場所：オンライン会議（Zoom）

出席者：八重樫良二・代表・理事長、新関伸也・副代表、新井浩・副理事長、山田芳明・副理事長、佐藤哲夫・顧問、芳賀正之・総務局長、村田透・副総務局長、河西栄二・総務局員、前芝武史・総務局員、秋山敏行・総務局員、大貫真寿美・総務局員、小林俊介・大会運営委員、西村徳行・学校美術教育支援委員会委員長、（書記：村田）

（1）教大協全国研究部門代表者連絡協議会の報告（開催見送り）

- ・芳賀・総務局長より、「令和3年度研究部門代表者連絡協議会及び各種手続等」に基づき、令和2年度の協議会は見送られたことの報告があった。
- ・八重樫・代表・理事長より、例年と同じ資料「2020年度【要望書】全国美術部門」を日本教育大学協会に提出したことの報告があった。

（2）各種委員会の活動報告

①学校美術教育支援委員会（大学造形教育連絡協議会）

- ・西村・学校美術教育支援委員会委員長より、今年度はコロナ禍により、本委員会の活動は特に無かったことの報告があった。
- ・芳賀・総務局長（代理：笠原・学校美術教育支援委員会副委員長）より、中学校美術科教員実態調査の結果と要望書（「2020年度【要望書】全国美術部門」、「最新2019年度中学校美術科教員実態調査結果」、「令和2年度_中学校美術科教員調査_データのまとめ」）について報告があった。

②学会誌委員会

- ・山田・学会誌委員会委員長より学会誌 53号の状況、論文掲載料金の納入完了、学会誌発送（4月）に向けて業務を進めていることの報告があった。
- ・芳賀・総務局長より、住所不明かつ長期に渡り会費未納であった会員に関して除籍とし、学会誌等は郵送しないことの報告があった。

(3) 令和3年度全国美術部門協議会・第60回 大学美術教育学会 山形大会について

- ・小林・大会運営委員より、「概要案_企画シンポジウム_2021年度大学美術教育学会全国大会_案_200316」に基づき、山形大会のシンポジウム案の報告があった。シンポジウムの内容や実施方法(オンデマンド or リアルタイム)などについて質問があり、担当も含め、シンポジウム案について引き続き検討を行うことが確認された。
- ・山形大会の開催形態について、出席者が意見を出し合い、オンライン開催とする決定がなされた。オンライン開催するためのアウトソーシングをする業者について、地元(山形)の業者を第一候補として、新関・副代表と小林・大会運営委員とが検討することとなる。
(※業者の決定は5月・GWまでとし、6月には会員に第一次案内を発信する予定)。
- ・山形大会の大会参加料は無料、参加者や発表者の受付の対応として導入していた中西印刷のサポートデスクは使用しないことを確認した。
- ・新井・副理事長より、オンライン開催ではあるが、現地参集のオンライン企画(部門協議会など)もあるため、山形大学でのweb環境の検討・配慮について要望があった。

(4) 部門協議会の企画

- ・新関・副代表より、開催形態について提案があり、出席者が意見を出し合った結果、オンライン開催(オンデマンド or リアルタイム)

とし、関係者は現地参集する決定がなされた。

- ・企画について、出席者が意見を出し合った結果、東北をテーマ(例えば、教員養成系大学の現状、教員採用の現状など)とする方向で検討を重ねることの確認がなされた。

(5) 造形芸術教育協議会(3学会連携)の開催について

- ・芳賀・総務局長より、「造形芸術教育連絡協議会」に基づき、協議会の開催(2021年3月21日15:00～、オンライン)について、報告がなされた。当日は協議会を構成する3学会(大学美術教育学会、美術科教育学会、日本美術教育学会)の代表者ら、15名の参加により協議が行われ、代表者レベルでの課題検討・整理を行なった。三学会統合の方向性は、傘のような統合組織(例えばアンブレラ方式のイメージ)として、組織運営の効率化・合理化も併せて、各学会から原案を出し合っ、実現可能性の議論を進めることとして会議を終えている。これまでの経緯、協議内容について今後、本学会でもHP掲載を通して会員に向けて周知する予定である。

(6) 次年度の総務局及び各種委員会の組織構成について

- ・芳賀・総務局長より、「R3_大学美術教育学会役員・各種委員」について報告がなされ、新規役員・各種委員(継続や候補を含む)について確認がなされた。

(7) 次年度の大会開催のブロックと大会運営委員について

- ・大会運営委員: Vの中国・九州ブロック(R3-R4委員)
- ・今後の運営委員: I(北海道・東北/山形大学) → V(中国・九州) → IV(近畿・四国) → III(北陸・東海) → II(関東) → I(北海道・東北)
- ・過去の全国大会 V(中国 H29: 広島大学) → IV(近畿 H30: 奈良教育大学) → III(東

海 R 元：岐阜大学) → II (関東 R2：宇都宮大学) → I (東北 R3：山形大学)

(8) 次年度の運営委員会及び総務局の主な活動について

- ・芳賀・総務局長より、「総務局分担」について提案があり、総務局の仕事分担の確認がなされた。
- ・組織運営の中心を担う総務局長に様々な仕事が集まっていることから、業務負担の軽減と円滑な事務運営を図るため、そのサポートとして事務員を設けることの提案と確認がなされた。

(9) 次期の部門代表・学会理事長の選出について

- ・芳賀・総務局長より、「資料_代表・理事長選考委員会」、「【議事録】2019 第 1 回運営委員会_議事録 20190626」に基づき、次期の部門代表・学会理事長の選出について報告がなされた。芳賀・総務局長が選考委員長となり、選考委員会を 6 月に開催することの確認がなされた。

(10) 第 2 回 全国美術部門役員会・大学美術教育学会理事会 (メール会議) の開催について

- ・芳賀・総務局長より、「第 3 回 総務局会議事録 03」の基づき報告がなされ、本総務局会の議事を基にしたメール会議を開催することの確認がなされた。

(11) その他

- ・大貫・総務局員より、山形大会での学生会議をオンライン開催とする提案があり、その方向で検討を進めることの確認がなされた。
- ・河西・総務局員より、令和 3 年度の会報について、各地区からの原稿を集約中であること、次期会報担当の総務局員が決定し次第、資料を引き継ぐことの報告がなされた。

2. 第 2 回日本教育大学協会全国美術部門役員会・大学美術教育学会理事会

【協議事項】

なし

【報告事項 (依頼)】

1. 山形大会における部門・学会の総会の議長・副議長について

大会時の総会の議長団 (議長、副議長) は、慣例で前年度及び次年度の全国大会開催地区の地区全国委員・地区全国理事にお願いしております。令和 3 年度の議長団 (議長、副議長) は、「関東地区」から 1 名、「中国・九州地区」から 1 名の選出をお願いいたします。

- ・日本教育大学協会全国美術部門総会 議長 (1 名)、副議長 (1 名)
- ・大学美術教育学会総会 議長 (1 名)、副議長 (1 名)

※選出いただいた 2 名で両総会の議長・副議長を交代でお願いしています。

- ・令和 2 (2020) 年度 日本教育大学協会全国美術部門協議会 / 第 59 回 大学美術教育学会 宇都宮大会」においては、新型コロナウイルスの感染拡大と終息の目処が立たない状況を鑑みて、会員が一同に現地に集合する開催を断念し、その代替措置として「オンラインによる大会」(Web 開催)を開催となりました。その関係で、総務局内で担当しました。令和 3 年度に関しては、オンライン開催で実施する予定であり、地区の担当の方には詳細が決まったところで相談します。

2. 登録メールアドレスの確認のお願い

現在、全国美術部門及び大学美術教育学会の皆様には、封書の郵送の他に、Eメールによって全国大会等の諸案内をしているところです。しかし、Eメールアドレスの変更手続きがされておらず、届かないケースがあります。会員情報のメールアドレスをご確認いただき、変更がある場合はメールアドレスの更新をお願いしま

す。地区会の先生方にもご連絡いただければ幸いです。

<確認・更新方法>

■部門会員情報の変更の仕方

「日本教育大学協会全国美術部門・大学美術教育学会」HP へアクセス

【ホーム>日本教育大学協会全国美術部門>会員情報変更について>日本教育大学協会全国美術部門オンライン変更手続き】の順番でクリックし、画面の指示に従い変更してください。

■学会会員情報の変更の仕方

「日本教育大学協会全国美術部門・大学美術教育学会」HP へアクセス

【ホーム>大学美術教育学会>入会・変更・退会>会員情報変更・退会について>大学美術教育学会オンライン変更手続き】の順番でクリックし、画面の指示に従い変更してください。

3. 新規（令和3-4年度）地区全国委員・地区全国理事、各種委員会委員の選出のお願い

（1）地区全国委員・地区全国理事、各種委員会の委員長の先生方へのお願い

新規（令和3-4年度）地区全国委員・地区全国理事の選出をお願い致します。令和3年6月末を目途にご報告頂ければ幸いです。この件につきましては、令和3年5月頃に改めて依頼させていただきます。よろしくお願い致します。

（2）各種委員会の委員長の先生方へのお願い

新規（令和3-4年度）委員の選出をお願い致します。決まりましたら総務局長の芳賀までご連絡ください。

4. 日本教育大学協会全国美術部門の入退会の手続きのお願い

地区全国委員の先生方へお願いがございます。令和3年度の全国美術部門の会員の入退会（令和2年着任者、令和元年退職者など）について、令和3年6月末を目途に手続きをお願い致します。

入退会の手続きは、地区会ごとに行いますので取りまとめをお願い致します。この件につきましては、令和3年5月頃に改めて依頼させていただきます。その際、手続き用の書類等をメールでお送りします。よろしくお願い致します。

5. その他

令和3年度 日本教育大学協会全国美術部門協議会・第60回 大学美術教育学会 山形大会ですが、オンライン開催で進めていくことになりましたが、6月頃を目途に実施の方針（案内等）を出す予定です。

令和2年度 総会報告

令和2(2020)年度 日本教育大学協会全国美術部門協議会総会 議事録

日時：令和2年9月20日（日）14:00～14:30
場所：宇都宮大学（共同教育学部ティーチングコモンズ）

進行：株田 昌彦（宇都宮大学運営委員）

書記：松尾大介（副総務局長）

1. 挨拶

・八重樫・代表より挨拶がなされた。

2. 議長団選出 総務局

・議長（村田・副総務局長）、副議長（松尾・副総務局長）が選出された。

3. 議事

【報告事項】

(1) 令和2年度役員・各種委員等

・八重樫・理事長より『大会概要集』（以下、冊子）「令和2(2020)年度 日本教育大学協会全国美術部門 役員・各種委員会委員一覧」を基に報告がなされた。

(2) 令和元年度事業

・芳賀・総務局長より、冊子「令和元年度 部門 事業報告」を基に報告がなされた。

(3) 令和元年度決算

・芳賀・総務局長より、資料「全国美術部門 令和元年度 決算」に基づき報告がなされた。

(4) 令和元年度監査

・新野・監事より、当日配付資料「監査報告書」に基づき決算が正確に執行されている報告がな

された。

(5) 令和3年度協議会の開催大学

・小林・大会運営委員より、令和3年9月25、26日に山形大学で開催される協議会及び全国大会について説明がなされた。

・芳賀・総務局長より、令和4年度以後の全国大会開催を担当する地区ブロックの順番について説明がなされた。

(6) その他

・特に無し。

【協議事項】

(1) 令和2年度事業計画（案）

・芳賀・総務局長より、冊子「令和2年度 部門 事業計画」に基づき説明がなされ、承認された。

(2) 令和2年度予算（案）

・芳賀・総務局長より、資料「全国美術部門 令和2年度 予算案」に基づき説明がなされ、承認された。

(3) その他

・特に無し。

4. 議長団解任

5. 閉会の辞

・新関・副代表より閉会の辞がなされた。

令和元年度 全国美術部門 決算

■収入の部

(円)

	費目	予算額	決算額	増減	備考
年会費	会費	897,000	705,000	-192,000	3,000円×235名
	未納分	0	123,000	123,000	
助成金	教大協成金	60,000	60,000	0	
繰越金	繰越金	272,854	752,009	479,155	
	合計	1,229,854	1,640,009	410,155	

■支出の部

(円)

	費目	予算額	決算額	増減	備考
補助金	全国協議会補助金	200,000	200,000	0	岐阜大会
印刷製本費	会報発行	150,000	70,569	-79,431	
	名簿発行	150,000	111,771	-38,229	
運営費	運営委員会・拡大総務局会	300,000	193,720	-106,280	旅費
	会場費	50,000	44,630	-5,370	会場費
	各種委員会等	50,000	0	-50000	部門調査
事務経費	通信費	100,000	64,944	-35,056	会費請求
	事務費	10,000	0	-10000	
	雑費	10,000	1,580	-8,420	手数料
委託費	事務支局業務委託費	99,000	99,000	0	会員管理業務
負担金	全造連負担金	4,000	4,000	0	年会費
予備費	予備費	106,854	0	-106,854	
	合計	1,229,854	790,214	-439,640	

収入の部－支出の部＝ 849,795 (次年度へ繰越)

令和2年度 全国美術部門 予算案

■収入の部

(円)

	費 目	前年度決算額	予算額	増減	備 考
年会費	会費	705,000	861,000	156,000	3,000円×287名 (令和2年度会員)
	未納分	123,000	0	-123,000	
助成金	教大協成金	60,000	60,000	0	
繰越金	繰越金	752,009	849,795	97,786	
	合 計	1,640,009	1,770,795	130,786	

■支出の部

(円)

	費 目	前年度決算額	予算額	増減	備 考
補助金	全国協議会補助金	200,000	200,000	0	宇都宮大会
印刷製本費	会報発行	70,569	150,000	79,431	全国美術部門会 報 No. 54 (発送費込み)
	名簿発行	111,771	0	-111,771	隔年発行
運営費	運営委員会・拡大総務 局会	193,720	300,000	106,280	旅費
	会場費	44,630	50,000	5,370	会場費
	各種委員会等	0	50,000	50,000	部門調査
事務経費	通信費	64,944	100,000	35,056	会費請求
	事務費	0	10,000	10,000	
	雑費	1,580	10,000	8,420	手数料
委託費	事務支局業務委託費	99,000	99,000	0	会員管理業務
負担金	全造連負担金	4,000	4,000	0	年会費
予備費	予備費	849,795	797,795	-52,000	
	合 計	1,640,009	1,770,795	130,786	

令和元（2019）年度 事業報告

4月5日（金）	「岐阜大会一次案内」郵送・HP掲載
6月4日（火）	R1 論文集『日本教育大学協会研究年報』 査読候補者推薦
6月9日（日）	第1回運営委員会、第1回総務局会（東京／ABC貸会議室）
6月24日（月）	「部門会報No.53」発行・郵送・HP掲載 「岐阜大会二次案内」郵送
8月27日（火） ～9月2日（月）	第2回総務局会（メール会議）
9月1日（日）	岐阜大会事前参加申込締切
9月3日（火）	「岐阜大会最終案内」HP掲載、メール配信
9月18日	平成30年度会計監査 （山本監事・松尾監事）
9月20日（金）	大会前日諸会議：第3回総務局会、第1回全国美術部門役員会、各種委員会、大学造形教育連絡協議会（全美協との協議会）
9月21日（土） ～9月22日（日）	令和元年度日本教育大学協会全国美術部門協議会・第58回大学美術教育学会 「岐阜大会」：部門・学会合同開催式（岐阜大学）、研究発表（口頭）、シンポジウム、部門・学会合同懇親会、部門協議会、ポスター発表、総会、閉会式、大会開催大学引継ぎ（次期開催大学-宇都宮大学）
11月21日（木） ～11月22日（金）	第72回全国造形教育研究大会 愛知大会（全国造形教育連盟大学部会）
11月27日（水）	日本教育大学協会への事業実績報告（R1.4-12事業分）
12月31日（木） （令和2年）	「令和元年度日本教育大学協会全国美術部門会員名簿」発行・郵送 日本教育大学協会全国研究部門連絡協議会（東京学芸大学本部）
1月24日（金）	第3回運営委員会、第3回総務局会
2月2日（日）	（東京／TKP 東京駅日本橋カンファレンスセンター ミーティングルーム） 第2回部門役員会（メール会議）
3月23日（月） ～31日（火）	日本教育大学協会への事業報告（R1.12-R2.3事業分）
3月27日（金）	*上記のほか、運営委員会（メール会議）等を随時開催

令和2（2020）年度 事業計画

4月6日（月）	「宇都宮大会一次案内」郵送・HP掲載
5月22日（金）	R2 論文集『日本教育大学協会研究年報』 査読候補者推薦
7月13日（月）	「宇都宮大会二次案内」郵送（取消）
7月26日（日）	第1回運営委員会、第1回総務局会（オンライン会議）
8月3日（月）	「宇都宮大会案内（WEB開催）」ホームページ開設、メール配信
8月26日（水）	「宇都宮大会 WEB開催案内」
9月12日（土） ～9月17日（木）	第2回総務局会（メール会議）
9月中旬	令和元年度会計監査 （新野監事・原口監事）
9月18日（金）	大会前日諸会議：第3回総務局会、第1回全国美術部門役員会 「宇都宮大会冊子」pdf版 HP掲載
9月19日（土） ～9月20日（日）	令和2年度日本教育大学協会全国美術部門協議会（WEB開催）：部門開会式、部門協議会、部門閉会式、部門総会、大会開催大学引継ぎ（次期開催大学-山形大学）
10月10日	「部門会報No.54」発行・郵送
11月21日（木） ～11月22日（金）	第73回全国造形教育研究大会 千葉大会（全国造形教育連盟大学部会）（中止） 日本教育大学協会への事業実績報告（R2.4-12事業分）
11月30日 （令和3年）	「宇都宮大会概要集・記録集」郵送・HP掲載
1月	日本教育大学協会全国研究部門連絡協議会（東京学芸大学本部）（延期）
3月18日	第3回運営委員会、第3回総務局会（オンライン会議）
3月31日	第2回部門役員会（メール会議）
3月31日	日本教育大学協会への事業報告（R2.12-R3.3事業分）
	*上記のほか、運営委員会（メール会議）等を随時開催

令和2（2020）年度 日本教育大学協会全国美術部門協議会

第59回 大学美術教育学会 宇都宮大会報告

2020年9月18日（金）～20日（日）に、「2020年度日本教育大学協会全国美術部門協議会並びに第59回大学美術教育学会」を宇都宮大学で55年ぶりに開催しました。当初宇都宮大会は関東地区の8大学の支援体制の下、通常の対面形式での開催を予定しておりました。しかし、7月の新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、学会初のオンラインでの開催へと変更となりました。従来行っていた懇親会と学生会議を中止とし、役員会議、全国美術部門協議会、口頭発表、ポスター発表、記念講演会、総会を行うこととしました。これらのイベントには8月3日に公開した特設の第59回大学美術教育学会宇都宮大会のホームページを通してアクセスする方式を取りました。また、学会参加にあたっては、参加費を徴収せず、学会員全員および事前に参加申し込みのあった方にホームページ閲覧のためのパスワードを配信しました。

学会当日は大会運営関係者10名が宇都宮大学に集い、会の進行やライブ配信に務めました。また、概要集の代替として学会終了後に記録集を発刊し、学会員全員に配送しました。

1. 概要

[日程]

○大会前日9月18日（金）午後

役員会議（Zoom配信）

○大会1日目9月19日（土）

部門開会式、日本教育大学協会全国美術部門主催協議会、学会開会式、口頭発表、ポスター発表、記念講演会

○大会2日目9月20日（日）

口頭発表、ポスター発表、総会

[大会テーマ]

地域とつながる美術教育 ―生活や社会の中の美術に向けて―

[会場]321-8505 宇都宮市峰町 350 宇都宮大学

[主催]日本教育大学協会全国美術部門協議会／大学美術教育学会

[後援]宇都宮大学

[運営]宇都宮大学 大会運営事務局

[発表申込み・事前申込み]

○口頭及びポスター発表の申込（演題登録）

7月1日（水）9時～8月5日（水）24時まで

[参加者] ○9月18日付けで学会員736名に向けて大会案内を配信

○学会員以外の参加者(事前申込者)61名

[学会ホームページ訪問者数]

9月19日（土）約600名

9月20日（日）約500名

[発表者] 口頭発表39件、ポスター発表10件

2. 大会1日目9月19日（土）

[令和2年度日本教育大学協会全国美術部門開会式、協議会]

全国美術部門の開会式および協議会をZoomおよびYouTubeによるライブ配信にて行いました。協議会（10:00～12:00）では「ウィズ・コロナウイルス時代の美術教育」というテーマの下、新関伸也氏（滋賀大学）をコーディネーターとして、本田悟郎（宇都宮大学）、株田昌彦（宇都宮大学）、松島さくら子（宇都宮大学）、八重樫良二氏（北海道教育大学）、新井浩氏（福島大学）の5名から、教育学部や教育系大学におけるオンラインの美術授業の実践事例が報告され、課題や今後の展望に



図1. 開会式で挨拶をする
本田大会運営委員長



図2. 協議会の様子



図3. 記念講演会の様子（右）山本理顕氏
（左）梶原良成 事務局委員

ついて協議しました。この中で浮き彫りとなったのは、オンライン化に適した題材とそうでない題材、オンデマンドを活かした資料や教材の在り方、美術における対面授業の有効性（授業空間の共有から発する創造を促す場の雰囲気）でした。

[第 59 回大学美術教育学会全国大会開会式]

宇都宮大会の開会式(13:00-13:15)を Zoom および YouTube によるライブ配信にて行いました。

[口頭発表、ポスター発表]

19、20 日の両日に行われた口頭発表、ポスター発表では鑑賞教育、教材開発、材料、素材研究、美術史、美術理論、国内外での幼児造形教育などに関する発表がありました。これらはホームページ内の個別の発表ページ内でオンデマンド配信されました。また、それぞれのページには、コメント記入欄フォーム送信欄が設置され、これらを通して、活発な意見の交換が為されました。

[記念講演会]

講演会は名古屋造形芸術大学学長で建築家の山本理顕氏を講師としてお招きし、梶原良成（宇都宮大学）がコーディネーターを務めました。講演会の配信は東京セミナースタジオから行い、宇都宮大学の会場と繋ぐ方式をとりました。

大会テーマと同じ「地域とつながる美術教育—生活や社会の中の美術に向けて—」を講演題目として、山本氏にお話しいただきました。まず、氏が手掛けた建築作品（埼玉県立大学、公立はこだて未来大学、名古屋造形大学）に見られる周囲の環境との調和や使用者の活動を活性化させる場の設計について解説がありました。中でも進行中の名古屋造形大学新校舎の事例では、地下鉄駅の真上に位置する利点を生かした校舎内のアートストリート（多目的ホール）が特徴的でした。アートストリートは地域コミュニティに開かれた空間であり、アートと関わる機会を地域に提供し、延いては大学自体が観光地となることを意図していました。

またその他、既存のカテゴリーに囚われない広い視野で美術の分野を捉え直した名古屋造形大の 5 つの領域や、学生と教員と地域の企業が連携した商品開発プロジェクト等の紹介がありました。

いずれも、これからの社会において美術が担う役割が明確となる内容でした。

[宇都宮大学構内見学]

大会運営関係者が宇都宮大学峰キャンパスの名所であるフランス式庭園と峰が丘講堂の見学を行いました。なお、前述の部門協議会と記念講演会の動画、この構内見学の様子は、2020 年 10 月 31 日までオンデマンド配信されました。



図 4. 宇都宮大学構内見学 峰ヶ丘講堂にて

3. 大会 2 日目 9 月 20 日（日）

[口頭発表][ポスター発表]

大会 1 日目と同様、大会ホームページ内でオンデマンド配信しました。

[部門・学会の総会]

部門および学会の総会(14:00-15:00)を Zoom および YouTube によるライブ配信にて行い、活動計画案、決算・予算報告などについて審議しました。

4. 大会運営について

多くの発表者、参加者、本部事務局、企業の方々の支援により、学会初のオンライン大会は盛会となりましたことにお礼申し上げます。なお宇都宮大会は以下のスタッフにより、運営いたしました。○宇都宮大会運営事務局(宇都宮大学 共同教育学部 美術分野内)[大会運営委員長]本田悟郎/[大会運営委員]株田昌彦/[大会運営事務局委員]梶原良成、松島さくら子

○第 59 回宇都宮大会システムサポートデスク

京都市上京区中西印刷株式会社内
[謝辞]学会総務局長の芳賀正之氏、サポートデスク河合真須美氏、ホームページの作成や運用で全面的にバックアップしていただいた高林未央氏には特段のご支援をいただきました。ここに厚くお礼申し上げます。

(大会運営委員 株田昌彦 2021. 5.10)

会員情報（メールアドレス）の更新のお願い

経費削減ときめ細やかな会員サービスの実現のために、部門からの連絡の一部を可能な限り電子メールに移行させていただいております。

会員の皆様には電子メールアドレスに変更等がございましたら、随時、e-naf システムより会員登録情報の更新をお願い致します。

<更新方法>

- ①日本教育大学協会全国美術部門会員情報管理システム（e-naf）ログイン画面を開く
<https://e-naf.jp/ART-BUMON/member/login.php>
- ②「ログイン ID（会員番号）」と「パスワード」を入力（ID は封筒の宛名の右下に記載があります。今後とも必要となりますので必ずご自身で控えておいてください。パスワードを紛失した場合は、ログイン画面より再発行が可能です。）
- ③会員登録情報をクリック
- ④画面一番下の「修正」をクリック
- ⑤修正したら、確認画面→登録へと進む。
- ⑥登録変更のご連絡（自動配信メール）が届いたら変更完了

問合せ先について

日本教育大学協会全国美術部門では、平成 26 年度以降、業務の一部をアウトソーシング（中西印刷株式会社に業務委託）しております。つきましては、会員管理・会費に関するお問い合わせは、日本教育大学協会全国美術部門事務支局（中西印刷内）へ、その他については、総務局へお問い合わせください。

<会員管理・会費関連に関するお問い合わせ>

日本教育大学協会全国美術部門事務支局
（中西印刷株式会社内）

Tel:075-415-3661

e-mail:art-bumon@nacos.com

<総務局へのお問い合わせ>

総務局専用電子メールアドレス

e-mail:daibibumon@uaesj.com

年会費の支払いに関するお願い

日本教育大学協会全国美術部門は、皆様の年会費により運営されています。年会費の支払いにご協力ください。

滞納されている方は、早めに納入くださいますようご協力お願い致します。なお、払込取扱票の再発行はいたしかねます。未納額が不明な場合には、会員様ご自身で e-naf より会費納入状況をご確認いただけます（メールによるお問い合わせにも、従来通り対応致します）。また、領収書は払込の控えをもって代替させていただいておりますので、ご了承ください。

■振込先

口座番号：00940-9-173101

加入者名：日本教育大学協会全国美術部門

*大会参加費の送付先とは異なりますので、ご注意ください。

部門会員の名簿について

日本教育大学協会全国美術部門では、2年ごとに会員名簿を作成し、会員の皆様にお送りしております。

令和3年度は、会員名簿を作成する年度となっております。各地区会を通して会員の皆様に名簿作成にご協力いただきますので、どうぞよろしくお願い致します。

なお、会員名簿は年度末に発行する予定です。

【総務局広報担当】

芳賀正之（静岡大学）

村田 透（滋賀大学）

松尾大介（上越教育大学）

高林未央（総務局事務員）

